

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		男女共同参画推進事業		担当課 市民協働推進課
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち		計画期間 平成 8年度～
	施策	人権の尊重		種別 任意の事務
	基本事業	男女共同参画意識の向上		市民協働 事業協力
予算科目コード		01-020704-01 単独	根拠法令・条例等	守谷市男女共同参画推進条例 守谷市男女共同参画推進ネットワーク設置要綱

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
総理府に男女共同参画室・審議会及び推進本部が設置されたことを受け、男女共同参画への取組が始まった。市では男女共同参画推進条例を基に、その理念の実現のための計画を策定し、それに基づいた事業を行っている。	男女それぞれが自立し、自らの個性と能力によって多様な選択の幅を広げ、お互いを尊重し合い、対等なパートナーとして共に積極的に社会に参画することができる「男女共同参画社会」の早期実現のため、下記の事業を行う。 - 男女共同参画に関する講座や研修の開催による啓発を行う。 - 小中学生及び高校生対象の啓発出前講座開催する。 - 子育て中世代が市事業に参加しやすい環境を整えるため、保育ルームを開設する。 - 広報もりやに男女共同参画に関する啓発記事を連載する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市民及び市内事業者が市や市民団体が開催するセミナーやフォーラムに参加することで、性別による固定的役割分担意識の解消など、男女平等意識づくりを行う。	
（参考）基本事業の目指す姿	
男女がともに責任を分かち合い、性別に関わりなく個性と能力を十分に発揮するために、固定的な性別役割分担意識がなくなるようにする。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
①職員の知識のみで啓発講座の内容を作成するには限界があるため、教材等の活用が必要である。 また、男女共同参画絵てがみコンクールについて、学校側の負担が大きいことから、実施方法の見直しが必要である。 ②平成30年度からスタートした第三次男女共同参画推進計画の進捗管理をしっかりと行う必要がある。	①学校ごとのニーズを把握し、的確な啓発事業を実施する。 【スケジュール】 通年：啓発プログラムを適宜作成する。 11～12月 啓発事業の実施時期及び実施校・実施内容の検討 12～3月 小学生（高学年）・中学生デートDV防止講座 12～1月 男女共同参画絵てがみコンクール 3月 男女共同参画絵てがみコンクール作品展 ②男女共同参画推進委員会を年に1～2回開催し、外部からの評価を各課に適切に反映させる。 【スケジュール】 10月 第1回男女共同参画推進委員会
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
①法務局で貸出を行っている人権啓発DVDを活用し、啓発プログラムを作成する。併せて、茨城県などが実施する研修会に積極的に参加し、職員の資質向上を図る。 絵てがみコンクールについては、学校側での選考をなくし、実施する。 ②男女共同参画推進委員会を年に1～2回開催し、外部委員からの評価を各課に伝達する。	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☒ 維持 ☐ 削減	定期的に啓発を行っていく必要があるため、現状を維持する。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度に取り組（評価、課題への対応）
・デートDVに関する啓発プログラムを行うとともに、性的指向や性自認の多様について理解を促進するための講座等を市内公立小中学校を対象に継続する。 ・幅広い市民層を対象とした研修を実施するなど、男女共同参画意識の向上を促進する。	・デートDVに関する啓発プログラムについては、学校と開催時期の調整が取れず、未実施となった。 ・市内の小学5年生と中学2年生を対象に「男女共同参画 絵てがみコンクール」を開催し850名の応募があり、若年層に対して男女共同参画の意識付けをすることができた。 ・男女共同参画推進ネットワーク委員による「男女共同参画コラム」を広報もりやに4回掲載し、市民に向けて男女共同参画について考える機会を提供した。 ・男女共同参画推進委員会を開催し、守谷市男女共同参画推進計画の実施状況について有識者から意見をいただいた。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
セミナー・フォーラム・啓発の延べ参加者数（人）	181.00	477.00	0.00	500.00	380.00
セミナー・フォーラム・啓発事業の開催数（回）	4.00	3.00	0.00	4.00	6.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☐ 横ばい ☒ 低下	啓発事業の開催数については、市内中学生を対象にデートDVに関する啓発プログラムを企画したが、中学校と開催時期の調整が取れず実施することができなかった。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持	☒ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	・市内中学校と連絡調整を密に行い、中学生を対象にしたデートDVに関する啓発講座を実施する。 ・性的指向や性自認の多様性について理解を促進するため、LGBTに関する講演会を開催する。			

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	1,710	1,824	68	306	306
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	1	1
	一般財源	1,710	1,824	68	305	305
正職員人工数（時間数）		875.00	1,619.00	582.00	650.00	650.00
正職員人件費		3,588	6,638	2,430	0	0
トータルコスト		5,298	8,462	2,498	306	306